

知立駅周辺地区エリアプラットフォーム
2025 年度 第 2 回検討会議 議事概要

日時：2025 年 9 月 18 日(木)10 時から 12 時

場所：知立市中央公民館講堂

参加者：会員 21 名、オブザーバー10 名、事務局 13 名

1. 開会あいさつ

- ・ 最終目標である「市民の皆さんが愛するまち・信頼できるまち」に向けてご議論お願いします。

2. 事務局からの報告

- ・ 令和 7 年度第 1 回知立駅周辺エリアプラットフォーム検討会議（書面会議）議案の決議結果報告
- ・ 昨年度からの会員名簿の変更等を報告

3. 今年度のエリアプラットフォームの活動方針と活動内容の報告

(1) エリアプラットフォームの今後の展望と活動体制・内容について

- ・ 事務局より、「昨年度までの振り返り」、「今後の展望と体制づくりの方向性」、「各部会の活動方針と内容」について説明。

<担当課から補足>

- ・ 情報発信部会で検討を進めている工事壁内へのデジタルサイネージの設置について、先日、駅工事施工者の立会いのもと、設置の可能性を確認した。今後も設置に向け、関係者との調整を継続する。（経済課）

(2) 各プロジェクトの実施計画と実施内容について

- ・ 事務局及びプロジェクト実施者より、各プロジェクトの実施状況について報告した。

<プロジェクト一覧>

- ① 駅前暫定広場の利活用プロジェクト
- ② まちなか事業者誘致プロジェクト
- ③ 高齢者居住サポート実証プロジェクト
- ④ 東海道まちなみ修景プロジェクト
- ⑤ 公共空間デザインプロジェクト

<担当課から補足>

- ・ まちなか事業者誘致プロジェクトで取り組む「知立市中心市街地出店事業者支援補助金（知立市経済課）」について、これまでにスーパーマーケット、ダーツやカードゲームで遊べる店舗の2件の交付申請があった。引き続きのまちなかの賑わい創出に向けて役立てていきたい。（経済課）
- ・ 高齢者居住サポート実証プロジェクトで実施した実証実験の経過を踏まえ、スタートアップ企業との連携の枠組みを検討し始めた。現在、STATION Ai へのヒアリングを行うなど情報収集を進めている段階であるが、市内企業との連携や市役所内部の改善に活用することを見据えている。特に、刈谷市では商工会との連携事例もあり、知立市でも商工会との連携方策も探っていきたい。必要に応じて、今後商工会と個別議論を依頼する可能性がある。（経済課）

4. 意見交換

<エリアプラットフォームのあり方と新会員の提案について>

- ・ 市のイベントに協力している団体（文化協会、スポーツ協会など）を入れた方が良いのではないか。
- ・ 文化協会、スポーツ協会などをエリアプラットフォームの新会員とするかどうか、参画してもらうプロジェクトの候補や先方の意向など含めて、検討する。
- ・ 情報発信が得意な若い人が入ると良いのではないかな。
- ・ 情報発信は、何をどのような目的で、どのツールで発信するかという戦略が大事である。そのため、情報発信部会に広告代理店などを入れた方が良いのではないかな。
- ・ 東海道まちなみ修景プロジェクトについて、いくつかの選択肢から選べるような進め方ができる体制が構築できると良いように感じる。
- ・ イベント実施の観点では、大型のイベントではなく、日常的なイベント実施を目指せる体制が構築できると良い。
- ・ 公園については、風景、賑わい、利活用が大事な中で、開催できるイベント規模（テントやキッチンカーの台数）や期待される集客数、必要な施設量や規模など、実現したい方向性を指標化し、民間事業者に提示できると議論が前進するのではないかな。
- ・ エリアプラットフォームは、会員を増やすより、知立市内の各団体に積極的に聞き取りをする進め方が良いのではないかな。そのために、候補になる団体をリストアップすることが大事ではないかな。
- ・ 個別課題については、各団体に聞き取りをする進め方を検討したい。

<各部会やプロジェクトの活動内容について>

（駅前暫定広場の利活用プロジェクト）

- ・ これまでは交通ロータリーが大事だと考えていたが、近年は広場を確保することが全国的な潮流である。時代の流れが変わる中で、これまで、なかなかプランが出てこなかった経緯もある。もっと市民と協議するプロセスを大事にした進め方をしてほしい。とりわけ、商工会は、市民の多くが参画している団体である。商工会が議論しているトレインパーク構想の内容を、どのように反映してもらえるのか。
 - ・ 市民とのコミュニケーションを重視して進め方についてのご要望を受けとった。また、駅前広場に対する提案があれば、建設的に進めるために具体的に伺いたい。適宜、部会にも展開しながら進めていきたい。
 - ・ 現在駅周辺では、賑わいづくりを面として進めているということ、平成 27～29 年度の街並みデザインプロジェクトや現在のエリアプラットフォームをはじめ、市民の意見を聞くプロセスで進めていることはご理解いただきたい。
 - ・ 面的な賑わいや回遊性の創出のために、事業所が増えることが大事である。事業者が出店判断をするための材料となる、初期コストやランニングコスト、暫定措置としての補助金支援と恒久的なハード整備の波及効果などを整理して提示していけると良い。その意味で、ビジョンやモニタリング指標は、可能な限り公開して行けると良い。
 - ・ 「知立市中心市街地出店事業者支援補助金（知立市経済課）」は、交付申請件数は 2 件に留まっているものの、問い合わせは多く、出店のきっかけとして期待している。また、回遊性について、知立市では、今後、知立南北線の歩道部の利活用社会実験を実施していきたいと考えている。
5. 閉会あいさつ
- ・ ユニー（ピアゴ知立店）の出店により、駅周辺の商店が撤退したように、まちは周辺環境によって大きく変わる。まちの未来を決めつけることもできないが、東京の下町で生き残る商店街をみると、商住混在が重要に感じる。特に、知立市のような地方都市では、住む人がいなければまちは滅びるし、住む人のニーズによってできたまちが残るのではないか。
 - ・ 鉄道高架が決まったときに、並行して区画整理を進めようとなった。その際、知立駅周辺には 1,000 ほどの墓がある小松寺があり、先人が苦勞して移設した経緯がある。そういった先人の苦勞や判断があって今に至っていることを今一度認識することをお願いしたい。そして、先人の思いを受け止めて進めていきたい。

以 上